

第1章 背景と目的

豊中市では、平成29年（2017年）3月に「豊中市住宅・住環境に関する基本方針（住宅マスタープラン）」を策定し、「誰もが地域に愛着を持って快適に暮らし続けることができるまち」の実現を目指し、「住み続ける・住み継いでいく」「誰もが自分らしく暮らし続ける」「安全・安心で地域の特性に応じた魅力あるまちをつくる」という3つの目標を掲げ、これらに沿って取り組みを進めてまいりました。

この間、世帯数の増加を上回る住宅供給による空き家の増加や、少子高齢化の進行、住宅セーフティネットや分譲マンションの適正管理のため法改正が行われる等、住宅施策をとりまく状況は変化し続けています。

特に、少子高齢化が進み、経済状況も低迷している中、住宅セーフティネットの構築による居住安定の確保が求められる等、福祉部局をはじめとした関係部局との連携による居住支援についても重要性が高まってきています。

また、令和2年（2020年）に新型コロナウイルス感染症が流行したことにより、働き方改革による新しい生活様式の浸透等、住宅に望まれる内容は今後変化していくことが考えられます。

そのため、これまで培ってきた「住宅都市」のイメージを継承しつつ、さらに発展させていくため、豊中市における今日的な住宅・住環境に係る課題を抽出・整理し、施策の方向性について検討を行うことを目的に、住宅ストックに関する基礎調査を実施します。

